

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大宮小】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p>【学習上の課題】 全体的に基礎的な知識や技能は定着率が高いが、全国や市で正答率が低い設問に対しては、本校でも課題が見られる。</p> <p>【指導上の課題】 個別の課題の定着を図るための時間を十分に確保できていない。</p>	⇒ ドリルパーク、計算・漢字ドリル等を活用し、個別に知識技能の定着を図る。【授業ごとの実施】
思考・判断・表現	<p>【学習上の課題】 主体的、対話的で深い学びの実現に向け、ICTを活用した協働的な学習に取り組んでいる時間が少ない。</p> <p>【指導上の課題】 系統立てた指導計画や、スキルの共有が図れていない。</p>	⇒ 各授業において、ICTを活用した方が効果が高いと想定できる場面において、意図的に協働作業を取り入れていく。【「学びの指標」質問項目の13～15における児童の肯定的な回答割合が80%以上】

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		<p>①結果分析(管理職・学年主任等)</p> <p>②詳細分析(学年・教科担当)</p> <p>③分析共有(児童生徒の実態把握)</p> <p>職員会議・校内研修等</p>
思考・判断・表現		

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	知識・技能については、国語、算数のどの設問においても概ねよい結果となっており、定着はかなり図れている。個別に支援が必要な児童入力を注ぐことが、さらなる底上げにつながるのではないかと。	
思考・判断・表現	国語の設問2の「書くこと」、空欄の内容を取材メモをもとにして指定された条件下で書く問題で、正答率が低かった。メモを引用しながら自分の言葉に起こして書く力に、伸びる余地があると考えられる。また、算数の設問4(3)「変化と関係」、速さを比べて、選んだ理由を説明する問題の正答率も低かった。答えはわかっているものの、それを自分の言葉で説明する力が弱いことが考えられる。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	授業の中で計算・漢字ドリル等に取り組む学習の流れを、低学年を中心に取り入れることができている。中・高学年ではドリルパークで復習に取り組む様子が見られている。	変更なし
思考・判断・表現	B	第1回の「学びの指標」質問項目13～15の数値が平均2.91であった。2学期から、ICTも活用した協働的な学習に取り組む頻度を増やしていける計画である。	【「学びの指標」質問項目の13～15における児童の回答数値平均が3.2以上】 ※評価方法の変更

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)